



麻生総理(中央)を囲んで(左端が筆者)

水の安全保障戦略機構が設立される。産・官・学・政界やNGO、NPOをも巻き込んで、世界と日本の水問題を解決しようとする大きな仕組みである。6日、総理官邸で中川財務・金融大臣に関係者が同行し麻生総理に水の安全保障戦略機構設立の趣旨および今後の方針を説明した。麻生総理は「水の安全保障」に深い関心を示され、積極的に推進するように述べられた。

グローバルウォータージャパン代表

吉村 和就

「水の安全保障」は「国内内外への対応として重要な課題であり、積極的に取り組んでほしい」と強い姿勢を示された。麻生総理は「水の安全保障を上手に使ってきた知識、経験、技術がある。日本が水問題で国際貢献するのは当然の責務である」、さらに山田正・中央大学教授は「欧米は勝手の国際基準を」と述べられた。

特別
緊急
寄稿

安全保障戦略機構の 設立にゴーサイン

麻生総理

麻生総理へ「水の安全保障特命委員会」の経緯を報告

公式会談に先立ち、総理大臣執務室で昨年9月まで「水の安全保障・特命委員会」で委員長を務められた中川昭一財務・金融大臣、および特命委員会で最終報

告書をまとめた竹村公太郎・日本水フォーラム事務局長、山田正・中央大学理工学部教授、それに筆者が趣旨説明を行う。中川大臣から「なぜ今、水なのか、特命委員会の成果報告」、竹村事務局長から「水の安全保障戦略機構の全体像の説明」、山田教授から「水

水の安全保障戦略機構の設立にゴーサイン

引き続き総理大臣邸接室では、新たに自民党の遠藤武彦・水の安全保障特命委員会委員長、公明党の浜田昌良外交部長(参議院議員)が加わり、関係者と討議。遠藤武彦委員長から、今作りの、日本に仕事をさせないようしてきた歴史がある。このような機構を通じ、日本の知識・技術が世界で使えるようにしてきた。筆者から「世界各国はグリーン・ニューディール政策の中で水政策を重要な課題としている」と述べ、いすれの提案に対しても麻生総理は深くうなずき、水の安全保障は国として重要な課題であり、早急に立ち上げるように積極的な姿勢を示された。

②アフリカで2年くらい

麻生総理大臣の水へのコメント

麻生総理は水に関して、ご自身の経験を踏まえ、次のように述べられた。

①阪神・淡路大震災の時に、他府県から消防が応援に来たが、消火栓のパイプの径が異なり、うまく対応できなかったことがあった。その後対応がなされたが、震災までは、それぞれの自治体でパイプの径が異なるなど思ってもみなかった。

